

第83回日本医史学会総会演題目次

特別講演

| | |
|---------------------------|---------------|
| 祭祀の医療思想…………… | 宗田 一……………(1) |
| 京都の医学の源流…………… | 山田 重正……………(5) |
| 会長講演…………… | |
| 江戸時代の京都における医の倫理の史的考察…………… | 守屋 正……………(8) |

一般口演

| | |
|--|-------------------------|
| 1、安芸守定と安芸家（北小路家）について…………… | 北小路 博央……………(22) |
| 2、日ボ辞典から見た安土桃山時代の医学—I 医療用具…………… | 亀 節子・大槻彰・前川久太郎……………(24) |
| 3、向井元升の家系について…………… | 中 西 啓……………(27) |
| 4、誰が山脇東洋に苛私林牛私「解体原書」を贈ったか…………… | 川 島 恂二……………(29) |
| 5、いわゆる「ターヘル・アナトミア」と解体新書の比較（その三）…………… | 酒 井 恒……………(32) |
| 6、稲村白羽（三伯）の「金匱方註」について…………… | 中 山 沃……………(34) |
| 7、本居宣長の醫學と國學…………… | 高 橋 正 夫……………(37) |
| 8、柚木太淳について…………… | 中 野 操……………(39) |
| 9、江馬元齡の医学史的漢詩文について…………… | 青 木 一 郎……………(40) |
| 10、整骨範草稿について…………… | 蒲 原 宏……………(41) |
| 11、日本における新生児沐浴の変遷…………… | 藏 方 宏 昌……………(43) |
| 12、サレルノ医学前史…………… | 小 沢 吉 見……………(46) |
| 13、フランスにおける最初の医学新聞を発行したニコラ・ド・ブレニーについて…………… | 大 村 敏 郎……………(47) |
| 14、鼠の自然発生実験の考察——実験中の事故は史論の対象ではない——…………… | 安 江 政 一……………(50) |
| 15、F・グリソンの非刺激性学説とその影響…………… | 栗 本 宗 治……………(52) |

- 16、 医史学からみた医化学からの生化学への発展とその未来像……………柴田幸雄……………(54)
- 17、 ディオスクリデス・「ウィーン写本」……………大槻真一郎……………(56)
- 18、 英国外交文書中の医師W・ウィリスの足跡(主にP・R・OのF・O46による)(1)……………原口忠男……………(59)
- 19、 Monteverde 作 Edward Jenner の大理石像……………加藤四郎……………(61)
- 20、 中国における「医は仁術」の起源……………山本徳子……………(63)
- 21、 中国医学と道教(その二、太平経について)……………吉元昭治……………(66)
- 22、 中国古代医学に於ける陰陽について……………家本誠一……………(68)
- 23、 日本の原始時代における医療と王権……………奥富敬之……………(71)
- 24、 『延喜式卷第三十七典薬寮』解釈の一試み……………MACÉ美枝子……………(73)
- 25、 「虜瘡」は麻疹……………三井駿一……………(76)
- 26、 嵯康『養生論』の一考察……………丸山敏秋……………(78)
- 27、 日本における初期の小児科領域についての二考察……………安達原曄子……………(81)
- 28、 (誌上発表) 正親町天皇の半井氏に『医心方』を下賜された理由について……………高島文一……………(82)
- 29、 (誌上発表) 『医心方』の伝写について(Ⅱ)……………杉立義一……………(84)
- 30、 徳島時代の関寛斎(統報)その医学的業績について……………福島義一……………(87)
- 31、 本邦放射線事始に尽した人びと……………今市正義……………(88)
- 32、 医会設立当時の静岡県医師人名簿……………土屋重朗……………(90)
- 33、 J・C・ベリーと柴原宗助……………金沢豊治……………(92)
- 34、 『幼きイエズス修道会』京都支部における看護婦養成事業について(明治25〜37年)……………坂本女子・高橋政子・名原寿子・山根信子・広瀬房子……………(95)
- 35、 「特命全權大使米欧回覧実記」における米欧の労働衛生事情……………乾修然……………(98)
- 36、 岡谷蚕糸博物館所蔵資料にみる製糸工女の医療費負担について(第五報 中途退場
工女と薬価負担)……………清水勝嘉……………(99)
- 37、 (誌上発表) 大正期の諏訪地方における製糸工場の労働環境について……………清水勝嘉……………(101)

- 38、水銀中毒の歴史……………三浦豊彦……………(103)
- 39、(誌上发表) 京都における梅毒小史……………藤垣亀雄……………(106)
- 40、中国伝統医学修得学生の漢語素養について……………小杉順一……………(109)
- 41、北京・中医研究院所蔵の『西陲古方技書殘卷彙編』について……………森村謙一……………(112)
- 42、漢代の粉末製造法「治」法について……………赤堀昭……………(113)
- 43、有持桂里の墓碑銘および過去帳とその漢方医学……………原桃介……………(115)
- 44、武相の種痘——平塚宿の場合……………深瀬泰旦……………(117)
- 45、津藩の種痘……………茅原弘……………(119)
- 46、新資料「伊藤圭介関係書翰集」について……………谷澤尚一……………(121)
- 47、『慾齋見書』について……………遠藤正治……………(123)
- 48、吉益四峰(今井鉄太郎)の家系について……………森納……………(126)
- 49、85年京都産婦人科医学界のあゆみ……………三木通三・森武史・伴一郎……………(127)
- 50、緒方正清と産婦人科学史……………石原力……………(129)
- 51、明治時代の公立医学学校廃止の顛末(その一)……………西川瀨八……………(132)
- 52、いわゆる「ドイツ医学」について……………中川米造……………(134)
- 53、成医会講習所設立の頃……………大滝紀雄……………(135)
- 54、エルウィン・ベルツと温泉医学……………安井広……………(136)
- 55、金沢におけるホルトルマンの外科治療……………寺畑喜朔……………(138)
- 56、陸海軍に於ける初期の脚気病対策……………佐久間温巳……………(140)
- 57、土肥慶蔵と呉秀三……………長門谷洋治……………(141)
- 58、呉秀三先生ヨーロッパ留学中の署名録——オーストリー・ドイツ精神神経学の巨匠
 たちの筆蹟……………岡田靖雄……………(144)
- 59、京都における歯科医学の先覚者たち……………浦田耕作……………(146)
- 60、欽明朝に來日したイラン系の医師王有棧陀について……………伊藤義教・松木明知……………(148)

- 61、(誌上発表) 中川五郎治の種痘法の研究——新しく発見された五郎治による被接種者……松木明知……(149)
- 62、(誌上発表) 世界最初の麻疹関連連死を巡って——トーマス・ハーバードの症例——……松木明知……(150)